
すき。

櫻木 夢羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
すき。

【Nコード】
N2390M

【作者名】
櫻木 夢羽

【あらすじ】
好き。君が好き。高慢な君が。どうしようもなく馬鹿な君が。でも、『好き』とは言わないよ。

「お前、俺のこと好きだろ」

何時もの間抜け面を崩して、真剣にあいつは私に言った。だから、私も真剣な顔で『嫌い』と言った。

そうすると、何時もの間抜け面を顔面に貼り付けて、あいつは『嘔吐き』と笑った。

金持ちの家に生まれて、親に厳しく育てられた私。礼儀作法に、ダンス、音楽に、芸術、護身術。私は、大財閥の名に恥じないように丹精に作り上げられた人形。生まれる前から結婚相手がいたし、親に撫でてもらったことも、親と一緒に休日過ごししたこともない。私は、完璧で、不完全な人間に育った。

あいつは、私とは真逆だ。

貧しい家庭に生まれて、親に愛されながら育った。教養なんてものはなく、馬鹿で、間抜けで、どこまでも真っ直ぐで純粋な奴。本当なら、出会ったこともなかった。

「俺のこと、好きって言ったら、愛してやってもいいぜ」

でも、私達は出会ってしまった。

貧乏人のくせに、プライドが飽きれるほどに高い、あいつの本性。新しい庭師としてやって来たあいつは、高慢に私に接した。

「何の冗談かしら。貴方みたいな人、私は嫌いよ」

大嫌いだ。馬鹿のくせに、貧乏人のくせに、落ちこぼれのくせに、私の心を独占しようとする。大嫌い。

「無駄にプライド高いよな、あんた。人に愛されたこともない人形のくせに」

「貴方に何が分かるの。気楽に生きてきたくせに」

否定はしない。と言うより、できない。だって、本当のことなの

だから。肌の温もりも知らないで育つて、それに憧れたこともない。
「あんたに何が分かるんだ。貧乏人の何が。気楽に、か。それは自分のことだろ、お嬢様」

「知らないわ。あなた達の気持ちなんて、分かりたくもないもの」
何で、私は子供みたいにむきになっているんだろう。何で、拗ねているんだろう。

「明日、結婚することになったわ」

挙式の前日、何故か私はあいつにそう伝えていた。

「だから、何。あんたが好きなのは、俺だろ」

あいつは、何でもないかのように、そう言った。それが、無性に腹が立った。

「何、愛の逃避行でもお望みなわけ。悪いけど、俺は逃げるのなんて嫌だからね」

「何で、私が貴方と逃げる必要があるのよっ」

何故か、声が震えた。それを隠すために、足早に其処を去る私に、あいつは何時もの言葉を投げかける。

「あんたが好きなのは、俺だけだろ」

男の子が生まれると、私は用なしとでも言うように、片田舎へと追いやられた。

別に、夫を憎んではない。元から愛してもいないし、なんとも思っていないから。人形扱いされるのにも、慣れている。

『人に愛されたこともない人形のくせに』

ただ、あいつに人形扱いされるのは腹が立つ。

数日後、新しい庭師がきた。あいつだった。

「久しぶり。禁断の恋でもしてみる？」

「何で、貴方なんかと」

追いかけてきたことが鬱陶しかったし、少しだけ、嬉しかった。

「知ってる、お前の旦那様、毎日女とつかえひつかえしてるぜ」

「知ってるわよ、そんな事」

ムカつくなら、クビにしてやればいい。無礼者、と罵ってやればいい。

だけど、そんなことしたら、心を許せる人がいなくなる。そう、私は、あいつを利用してただけ。私の存在を確定させるために。

そう思うたびに、胸が少しだけ苦しくなった。所詮、言い訳だ。

「お前が好きなのは、俺だけだろ」

そう言っ、あいつは今日も笑う。

（後書き）

結ばれるだけが幸せじゃない。まあ、そんな感じですよ。

2人が結ばれることは決してありません。生まれ変わったら、なんてこともありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2390m/>

すき。

2010年10月21日23時56分発行